

F 人材育成

提言内容

これからの学校運営を担う若手人材やミドルリーダー・管理職の育成に関する提言

分科会の趣旨

ベテラン層教職員の大量退職とともに、若年層教職員が増加し、年齢構成が急激に変化しつつある今日、学校経営・学校運営・学級経営・指導スキル等の継承及び改善・向上に向けた人材育成を、意図的・計画的・組織的に進めていかなければならない。

学校を取り巻く課題は極めて多種多様であり、学校は日々、個別の支援を必要とする子どもや様々な課題を抱えた家庭への対応、学校安全への対応や学校間、地域との連携などに奔走している。そのような状況の中、グローバル化や知識基盤社会に必要な資質・能力の育成、また、新たな視点からの授業改善を図り、実践することが求められている。若手教職員が半数以上を占める中、かつてのように一人の教員が高度な専門性を持ちつつ、全ての課題に対応することは困難となっており、校長のリーダーシップの下、組織的・協働的な「チーム学校」としての取組が必要となっている。

そのためには、自律的に学び、将来にわたって、資質・能力を高めていくことのできる若手の育成、そして、また、時代の変化を捉え、信頼される学校経営・学校運営を推進することのできるミドルリーダー、管理職の育成は、重要な課題である。

そこで、本分科会では、これからの学校運営を担う若手人材やミドルリーダー、管理職（副校長、教頭）を育成するための具体的な方策を明らかにし、提言する。

分散会の視点

第12分散会

組織の一員として人間性や指導力を高めることのできる若手人材の育成

教職員が備えるべき資質・能力として不易とされるものが様々ある一方で、変化の激しい社会において、求められる役割を果たすために、これからの学校を担う若手人材には、一層多様な資質・能力が求められている。

しかしながら、学校では、年代層に偏りがあり、若年層教職員が増加するとともに、ミドルリーダーの世代が減少し、今までのように先輩教職員から教職員としての在り方やスキル等を自然な形で受け継ぐことが難しくなっている。また、採用後間もなくメンタルヘルスの不調を訴える教職員の増加も問題となっている。

本分散会では、学校としてどのように組織的に若手人材を育成するかについて協議を深め、校長の役割と指導性を究明する。

第12分散会

時代の変化を捉える能力と豊かな人間性を身に付けたミドルリーダー・管理職の育成

学校は現状や新たな課題を的確に把握し「チーム学校」として、組織的・協働的に学校運営を推進することが必要である。ミドルリーダーは、その中核的存在であり、個々の教職員としての力量に加え、企画力や調整力、運営力等を発揮することが求められている。さらに、これからの管理職には、家庭・地域からの信頼に応える気概と使命感をもって学校運営に臨むことが期待される。また、教頭（副校長）は、学校経営の実務上の担い手として、先見性と実務能力や識見をさらに高め、教職員のリーダーとして力を発揮することが求められている。

本分散会では、次代の学校運営を担うミドルリーダー、管理職（副校長、教頭）の育成について協議を深め、校長の役割と指導性を究明する。